

高島藤樹会

(題字は、竹脇曼卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1
電話・FAX 0740(32)4156

「今、なぜ、中江藤樹なのか」

久保田 晓一

今日の日本社会が直面している諸問題、例えば、家庭での子どもの虐待事件、いじめから起きた子どもの自殺事件、頻発する人命の殺傷事件、震災による被災者の救済問題等々を直視した時、今こそ、私は、中江藤樹の思想と生き方から学び、教えを生かして歩んでいかねばならないと思う。何故なのか、その理由を述べたい。

第一の理由は、藤樹が命の根源を明確に示しておられることがあります。藤樹は『翁問答』の中で書いておられます。

①「さて元来をよくおしきはめてみれば、わが身は父母に受け、父母の身は、天地に受け、天地は太虚に受けたるものなれば、本来わが身は太虛神明の分身変化なるゆえに、太虛神明の本体を明らかにしてうしなはざるを、身を立つると云也。」

(上巻之本)

②「ばんみんはことごとく天地の子なれば、われも人も人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり」

(上巻之本)

③「天道を根本として生まれでたる万物なれば、天道は人物の大父母にして根本なり。根本の天道、純粹至善なれば、その枝葉の人物もみな善

にして悪なしと得心すべし

(上巻之末)

ここに挙げた三つの文章は、人間として生きるべき根本的な道を教え示し、人間信頼と、「畏天命」および「愛敬」の心を持つて生きることの大切さを説かれています。

第二は、藤樹が師弟同行の教育の大切さを身をもつて示されていることです。藤樹は愚純の弟子の大野了佐のために膨大なテキスト『捷径医芸』を書き与えている。また藤樹は、家庭教育、親と子のあるべき道「孝」の問題や子どもの年齢と発達段階に応じた躾・教育法を具体的に示しているなど、学ぶべきことが多い。更に藤樹は、わたしたちに「眞吾」の形式について教示してくれています。村落の教師として生き、弟子や隣人と共に歩み、天意にかなつた自己確立を求めつづけた藤樹であつた。藤樹の生き方と思想から深く学ばねばならないと私は思う。

(上巻之本)

藤樹先生の「学ぶ人間」への強い思いが「藤樹規」には込められている。



ひじりの声

上 田 藤市郎

藤樹書院の中へ入ると、左上の鴨居の所に「藤樹規」という額が掲げられている。藤樹書院で学ぶ人達に向けて、先生が三十二歳のときに書かれたもので、学びのための心がけとでもいうものである。

私たちが、何かを確実に実践したいと強く願う時には、ただ心の中で思っているだけでは不安で頼りなく思えてきて、文字に書いて貼り付け自分への呼びかけのようになることがある。一年の計や勝利を願うときなどによく見かける。「藤樹規」の末尾で、先生は、「学び」とは、知識を多くもつことではなく、言葉や行いで実践すべきだと述べておられます。

「論語（公治長第五）」の一文、『子曰く十室の邑にも、必ず忠信、丘の如き者有らん。丘の學を好むに如かざる也。』について、吉川幸次郎先生は、「孔子によれば、素朴なひたむきな誠実、それだけでは完全な人間ではないのである。学問をすることによって、人間はじめて人間である。

(新訂中国古典選朝日新聞社)と言つておられる。

中江藤樹 心のセミナー

田 中 清 行

二月十五日、安曇川公民館で開催され、九十名の参加を得ることができます。

●講師 廣瀬 童心 先生
(まなざし童心塾塾長・実践人の家理事長)

●演題 「藤樹先生の教えを今、ここ、自分に活かそう」

●講演の要約

昨年私は実践人の家で、森信三先生の書架を見ました。八千冊も蔵書があり、その中に松下亀太郎先生の『物語中江藤樹』を見つけて嬉しかった。この本を読んで、ときめき、感動しました。一つは、藤樹先生は九歳の時、祖父と故郷を出て、十一歳の時「大學」を読んで志を立て、修身を学び、これを一生貫かれたこと。二つ目は「あかぎれ膏葉」の話。母親が年老いて小川村は「脱藩」の話。母親が年老いて小川村に一人でいる。役人は替りがいるが、孝行する替りはない。そこで死を覚悟して脱藩された。本当に実践の人です。中江藤樹は江戸時代随一の学者です。

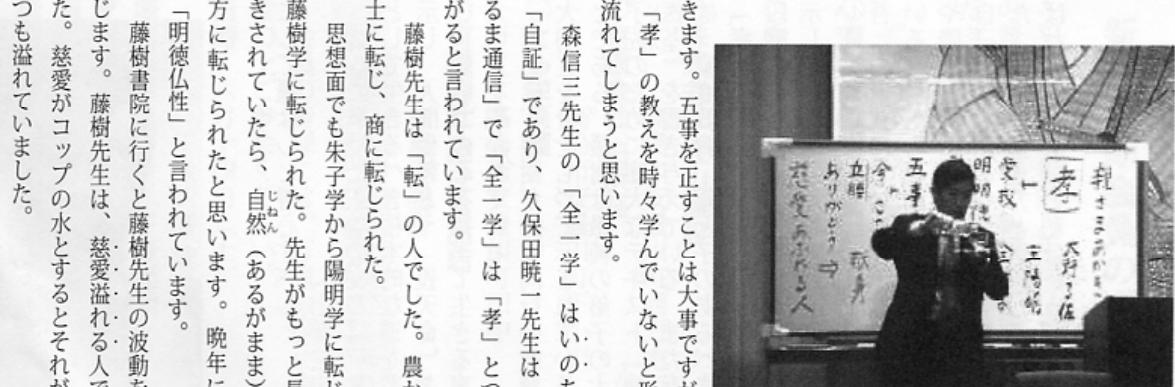
大野了佐の話。物覚えが悪い彼一人を教えるために医学の教科書まで作り、自分の命を削ってまで教えられた。了佐は母が長戸いで死んだので、医者になつて病気を治したいという志を持っていたからです。

小川村では藤樹先生が来られるだけで場の空気が和らいだそうです。馬方又左衛門の話。藤樹先生の感化力、靈性には感銘を受けます。

先生は、三十七歳の時、王陽明の『陽明学全集』三十八巻を入手し、熟読して、自分の思想が百年前の王陽明の思想と一致していることに感激されます。そして、先生四十一歳の時に藤樹書院が完成し、その六ヶ月後に逝去されます。

中江藤樹の根本思想は、「孝」。親のその親、そのまた親など辿つていくと、生命の根源に行き着く。それが「孝」、親さまで。私たち生命は皆、「孝」から出た兄弟姉妹とか家族とかみたいなものだから共に「愛敬」しなければならない。「明明徳」(明徳を明らかにする)、「致良知」(良知に至る)に努めなければならない。そのためには「五事」を正す。すなわち「貌、言、視、聴、思」を正さねばならないと言られています。これは美学です。

童心流に五事を正すを考えてみると、「今、ここ、立腰、ありがとう」です。立腰は腰骨を立てること。そうすることにより意識が天につながり、自分が主体になる。自然に「ありがとう」が出てきます。五事を正すを時々学んでいないと形になります。五事を正すことは大事ですが、流れてしまうと思います。



生き方を学ぶ「実践人」学習会 徳丸和枝
藤樹先生こそ徳川三百年の中でも最深の学者であると紹介されたのが、森信三先生です。

國民教育者の師父と仰がれた森信三先生は、「眞理は現実の唯中にある」と開眼され「実践(する)人」を提唱、創設されました。

その後、賛同する方々によつて森先生のご著書や蔵言を通して学び合う讀書会が、全国に展開されています。

ここ高島においても久保田暁一先生が発起人となつて、三月に実践人高島の会が発足致しました。

森先生のご著書をテキストに、読み合つた会員が集い、語り合い、また、聞き合い交流を深める会です。例会は月一回、安曇川公民館で開催しています。

私は集まりの中で思うのです。同じ一冊の本を読み合う中で、自分が感じたことを聞いていただけます。を感じたことながら、異なる職種分野の、人生経験を持つた方達からのお話を傾聴できる機会は、自分の生活に「気づき」をもたらしてくれます。一つ、新しいことを発見した! そんな喜びを持って帰れる、と。 ご興味を持たれた方、一度例会にいらつしやいませんか、お待ちしております。

青柳小学校の取組

前青柳小学校長 横田久夫

▼地域の方々の温かい支援

「二百人分の芋焼きは、これを見たら出来ますよ。」と、上小川のMさんから、お宅を訪問するや否や料理方法のメモをいたしました。

シリーズ② 「伝え継ぐ藤樹先生」

今から三年前、第一回藤樹デーで芋焼きをすることになり、調理方法や材料の相談に乗つていただきたくて訪問しました。前もつて用意してくださったメモと丁寧な説明に、学校への熱い思いが伝わってきました。

あれから三年が経ちます。毎年藤樹デーには、保護者や地元の方々の温かい支援をいただきながら、学校だけではできない充実した活動が、続けられています。



玉林寺（藤樹の墓所）門前でウォークラリーの問題を1年生に説明する6年生児童。

中江藤樹が説いた愛敬の心は、学校現場にあっては、たいへん説得力があり、誰にでも体験的に理解できます。学級での生徒活動や児童会活動、それに日々の学習や遊びなどは、基本的に集団活動です。そこで一番大事なことは、すべての仲間に對して真心をもつてコミュニケーションを図ろう

中でも、藤樹デーは、全校児童が一日かけて藤樹先生のことを学ぶ特筆すべき全校行事です。

藤樹デーは、次の四つから成ります。
①藤樹ウォーカラリー（六年生担当）、②芋焼き昼食（地域ボランティアの協力）、③藤樹かるた大会（五年生担当）、④心に響く芸術鑑賞（生の演劇や音楽）等です。

藤樹デーに取り組む高学年児童を見ていると、自らの役割をはたす際に、取り分け小さい子への配慮を怠らない場面が頻繁にある。

例えば、ウォーカラリーのあるポイントで、一年生にも問題が理解できるように、腰をかがめ低い姿勢で丁寧に説明しようとする。小さい子

が、さらに小さい子のために思いやりの心を表す。けなげにも小さい子のためにかいがいしく振る舞う子どもたちの心根に、愛敬の心が具現化したものを感じます。

藤樹の教えを学ぶために、青柳小学校では、二つの方法をとっています。藤樹の教えを学ぶということ

一つは、『副読本藤樹先生』等を使つた道徳や総合的な学習などのカリキュラムに位置づけられた学習を進めることです。

二つは、藤樹デーなどの学校行事や特別活動、清掃活動などの実践を通して体得する機会を多く持つことです。

藤樹の教えを学び、身に付けるには、これら二つの学習を積み、児童一人ひとりが、学校生活を送る上で規範意識を高め、誠実に生きようと努めることが大切です。校訓『良知に生きる』とは、この様な姿を指し示しているものと考えます。



西晋一郎 筆「愛敬」の顔（青柳小学校会議室）



校訓の石碑（青柳小学校玄関前）

寄稿 会員のひろば
「心温まるお話」

しつけの基本をおしえられ

小 多 偕 裕

青少年の健全育成に僅かながら関わりをもつた者として、特に最近の青少年非行の低年齢化が憂慮される思いから、本欄をお借りして寺田一清先生の著書「三つのしつけ」をご紹介したいと思います。特にしつけの三ヵ条。

『しつけとは、礼儀作法を身に付けてさせる事。しかし、その礼儀作法にも色々有るようで永平寺の参籠で経験した事のある道元禅師様が最も重んじられ、作法即仏法・仏法即作法とまで言われ規律戒律を厳しく説かれた食事のとり方、洗面のあり方、手洗いや入浴のあり方に至るまでの作法がありますが、中でも最も基本的なものは、一、祖父母や両親に、朝起きたらあいさつの出来る様に、二、祖父母や両親から名前を呼ばれたら「ハイ」と返事の出来る様に、三、脱いだ履物は自分できつちりと揃えて上がり、立つたら椅子を机の下に納められる様に。これがしつけの三ヵ条。

この三つの基本が身に付いたら、ほかのしつけも出来る様になるのです。これは人間の生き方の基本であり、人間が軌道に乗る三ヵ条でもあります。

と教えていただいています。

思い起こせば、数年前勤務先で毎日の朝掃除をしている時の事。決まつた時間に某中学生が、制服ズボンを半分近くずりおろして登校するのを見かけ「おはよう」と声かけするも無言で通過。一週間が過ぎると今度は反対側の道路を無言で登校。しかし、さらに一週間過ぎた頃、今度はこちらより先に向こうから「おはよう」の声がかかつて来て、ズボンも正規に穿いた姿に喜びを感じた事がありました。「まず大人が基本を示すこと。継続すること。これが大人も子どもも育つ事につながるものであると納得した次第です。ぜひ、寺田先生の「三つのしつけ」をご一読ください。

本 気 石 田 弘 子

『しつけとは、礼儀作法を身に付けて生み方を通じて高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めてほしいものです。そこを考えていきます。郷土を愛し、社会に尽くした先人の生き方を通して高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めてほしいものです。そしてその生き方を永く後世に語り継いでくれることを願っています。先人たちの生き方は私たちの血肉となつて生き方を励まし力づけてくれるに違いありません。

本気ですれば
大抵のことができる
本気ですれば
何でもおもしろい
本気でしていると
誰かが助けてくれる
本気で取り組めば互いに心が繋がり姿勢が正されます。顔つきが優しくなります。

「なんの、なんの、私は春になると家に居ながら、美しいお花見をさせてもらっています。こんなことぐらいいらないとばちが当たりますよ。」
その言葉に一瞬胸がつまつて返す言葉もなく、もう一度「すみません。」と言うのがやつとでした。
「ありがとうございます。」と言うべきだったかもしません。
このおばあさんがおつしやつたような言葉を何気なく発せられるお年寄りに、私もなりたいな、こんな老い方をしたいなど、初老を迎えた今思います。

本心・本気・本腰・本願、本のつくものはいい。とりわけ本気は好きな言葉の一つです。

地元の中学校で、郷土の先人に学ぼうをテーマに生徒と共に学んでいます。先人の考え方や生き方について進んで学び、共感し、自分の生き方に取り入れようとする子どもの育成が狙いです。代表的な人物に藤本太郎兵衛と琵琶湖治水の取り組み（郷土愛）、中江藤樹と馬方又左衛門（正直な心・誠実な行い）、そして清水安三と勉学の心（人類愛・強

い意志）等を取り上げています。映像や資料を利用し、また現地に足を運び、自分自身の目で見て、手に触れています。地域社会の一員として自分がどの様に生きていくのかを考えていきます。郷土を愛し、社会に尽くした先人の生き方を通して高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めてほしいものです。そこを考えていきます。郷土を愛し、社会に尽くした先人の生き方を通して高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めてほしいものです。そしてその生き方を永く後世に語り継いでくれることを願っています。先人たちの生き方は私たちの血肉となつて生き方を励まし力づけてくれるに違いありません。

ある日、私は桜の落ち葉の掃除にいつたら、ちょうどおばあさんもお家の前の落ち葉をせつせと掃いておられました。そこで、私が、「いつも家の前を散らかせて、すみませんね。」と謝ると、おばあさんは、ニコニコしながら、

「なんの、なんの、私は春になると家に居ながら、美しいお花見をさせてもらっています。こんなことぐらいいらないとばちが当たりますよ。」
その言葉に一瞬胸がつまつて返す言葉もなく、もう一度「すみません。」と言うのがやつとでした。
「ありがとうございます。」と言うべきだったかもしません。
このおばあさんがおつしやつたような言葉を何気なく発せられるお年寄りに、私もなりたいな、こんな老い方をしたいなど、初老を迎えた今思います。

「立志祭」

市内の全小学校で

藤樹先生は十一歳（満で九歳）の時、中国の古典である『大学』を読み、「自天子以至於庶人堯是皆以脩身為本（天子より以て庶人に至るまで堯是に皆身を脩むるを以て本と為す）」の言葉に心を引かれて、「生涯、学問に精進して聖人になろう」と、志を立てられました。

そこで、藤樹先生の誕生日である三月七日ごろに、市内全小学校では三年生を対象に『立志祭』を行っています。（小学校では、四年生が二分の一成人式として実施）そこで、藤樹先生の生き方や教えを学び、自分自身を振り返るとともに、自分の夢や志を抱き、生き方を考える機会とするものです。このところ、三内で合同の立志祭を開催するところが増えてきました。

安曇川地区での立志祭は、四部の構成になつていまます。第一部「藤かけの道を探索しよう」で

は、藤樹記念館、陽明園、墓所、書院、良知館を分かれて見学したり説明を受けたりします。第二部は安曇川公民館へ移動し、立志の式「自分の志を立てよう」です。この場では、『大学』の「自天子以至於庶人……」の唱和、「私の志」の発表、北川暢子先生による

藤樹紙芝居「大野了佐を教える」をもとにした講話、藤樹かるた大会などが行われました。第三部は各学校へ帰つて立志祭給食（藤樹先生も大洲で食べたと言われる「いたき」）で当時をしのびます。第四部は、家に帰つて立志祭を振り返しながらお家の人とお話をすることになっています。安曇川地区では、それぞれの『立志のことば』は一週間書院に奉納され、その後記念館に保存されて、二十歳の成人式で「二十歳への手紙」として受け取ることになります。子どもたちにとっては一生涯忘されることのない『立志祭』であります。

藤樹先生に学ぼう



地区	月 日	会 場	参加校等
マキノ	3月 6日	マキノ西小	4 小学校
今 津	2月 21日	今津東小	東・西小
	3月 7日	今津北小	今津北小
朽 木	3月 6日	朽木東小	東・西小
安曇川	3月 7日	安曇川公民館	3 小学校
	3月 13日	広瀬小	広瀬小学校
高 島	2月 12日	高島小	(4年生)
新 旭	2月 28日	新旭北小	南・北小

※広瀬小は、インフルエンザの流行のため単独実施。

（三田村治夫）

左表は、市内小学校での『立志祭』の実施状況です。



プロジェクターでの紙芝居を鑑賞、お話を聞く。

読んでみませんか…
「安岡正篤「心に残る言葉」」

（藤尾秀昭著致知出版社）

高 橋 志 郎

一昨年の暮れに縁あつて標記の本を手に入れた際、一気に読んでしまった、また要点を纏めました。

藤樹先生のことはよく研究されていて、昭和初期には藤樹書院も来訪されているそうです。

この本では「本物にしびれる」という節の中、次のような安岡先生の言葉を引用されています。

「人は何にしびれるか。
何にしびれるかによつて、
その人は決まる。」

中江藤樹は『論語』と王陽明にしびれていた。人間は本物にしびれなければならない

明治三十一年に生まれ、昭和五十八年まで日本の政財界のリーダーの精神的な支柱となつた安岡氏が、三百年以上前に四十歳で亡くなつた中江藤樹先生から、時代を超えてこのような言葉を残されることに驚嘆します。

この本には安岡先生の「人物学」のエッセンスが記されておりますので、ご一読をお薦めいたします。

良知館通信

山本義雄

良知館が藤樹書院の南隣に総合案内所として完成したのは平成十六年三月、今年で十年となります。休憩所を一つの足場に見学者には藤樹先生への理解を深めてもらいたい又教えを広めたいとの思いで開設されました。良知館は、公益財団法人藤樹書院が高島市から指定管理者となり開設当時より管理運営にあたっています。女性七名が交替でお茶接待、清掃、来客に館内での説明など観光ボランティアとしての心の交流に努めています。藤樹書院は男性七名が交替で訪問客に「近江聖人 中江藤樹」の生き方や教えを知つて頂きリピートを願つて対応しています。

翁問答の中に「万民ことごとく天地の子なればわれも人も人間のかたちあるほどのものはみな兄弟なり」とあります。武士が人の上にあって世を支配した江戸時代に人間として生きるべき真実の道を求めて実践したのが近江聖人中江藤樹先生です。すべてを包み込む大きな心。人間への深い愛と畏敬。藤樹先生が熱い思いを込めて人々に語りかけてきた藤樹書院には今もその心が息づいています。

書院の年譜、藤樹書院の年中行事、藤樹書院のあゆみ、近江聖人日本陽明学の始祖、致良知、愛敬等の項目別に解り易く説明板が掛けられています。ビデオコーナーでは逸話の数々のアニメや「今、藤樹先生に学ぶもの（童門先生に聞く）」「ユートピア見つけた（ゆかりの跡とインタビュー）」、需式祭典、歴史街道近江聖人の里、映画中江藤樹PR編などがあります。正保四年、新春中江藤樹先生四十歳の作品「天上心なくして泰陽を生じ人間意あつて新生をよろこぶ人間天上も異なるなし日用の良知これ至誠」の漢詩も展示しています。第十三回パネル展示では三月七日の立志祭の様子が写真展示中です。

新規賛助会員のご紹介

平成二十六年四月末現在で、本会の賛助会員として新規にご加入いたしました法人は次の通りです。

「ルール」とともに
毎年この時期に楽しみにしている
山菜採りに、今年もわくわくしながら
裏山に入りました。ねらうはゼン
マイで、「にしめ」もさることながら、
「ゼンマイの白和え」の右に出るも

のではありません
子どもの頃、祖母に連れられて
よくゼンマイ採りに出かけたもので
す。『ゼンマイには雄と雌があつて
柔らかい雌だけを探るようにし、そ
の中の一本は必ず残すように。』と
きつく教えられました。

- ウエストレイクホテル可以登
高島市安曇川町中央
- 株式会社 大山建設
高島市安曇川町西万木
- 有限会社 白浜荘
高島市安曇川町下小川
- とも栄菓舗
高島市安曇川町日中

○有限公司 綿庄食品店

高島市勝野

総会・講演会のご案内

会員の皆様には、万障お繰り合わ
せの上ご参会ください。

日時 六月十四日（土）

場所 エルブライド寿光苑

▼引き続き 五時から講演会開催
演題 「生涯学習のまちづくり」

講師 滋賀大学准教授

▼その後の講師先生を交えての懇親会にも、是非ご参加ください。

お詫びと訂正

今回の会報発行が五回目であることから、前回の会報は「第四号」でした。お詫びして訂正いたします。

前回の会報は「第四号」でした。お詫びして訂正いたします。